

## 環境白書の刊行にあたって



私たちが今直面している環境問題は、地球温暖化や生物多様性の維持への懸念など、世界的な課題となっています。

例えば、地球温暖化問題については、国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第4次報告書で、気温の上昇は人間生活や農作物、自然環境に重大な影響を与えるとの予測が示されており、また、生物多様性の問題についても、国連の呼びかけで

行われた生態系に関する総合的評価において、地球規模で生物多様性が失われていることが示されています。

一方、このような現代の地球温暖化などの環境問題は、社会の様々な分野における生産活動やサービス活動、さらには一人一人の日々の暮らしと密接に関連した問題でもあり、その解決のためには、行政だけでなく事業者や県民一人一人が事業活動や日常生活の在り方を環境に配慮した方向へ変えていく努力が大切であると考えています。

そのため、県では、県民、事業者、行政の各主体が、環境問題の当事者としての意識を持ち、それらの「協働」を基本に、環境への負荷の少ない「循環」を基調とした持続可能な社会、自然と人が「共生」する社会を構築していくことを目指し、その実現に向けた様々な取り組みを行っています。

特に、地球温暖化防止については、民生部門を中心に、いしかわ版環境ISOの普及や県民エコライフ大作戦など、県民の意識啓発を通じて実践活動を促すとともに、温室効果ガスや経費の削減効果がしっかり積み上がる取り組みを進めており、今年度は、家庭や事務所などにおけるより高度な取り組みを支援することとしています。

また、生物多様性の保全については、本県では身近な自然である里山・里海の利用・保全というアプローチを中心に部局横断的な取り組みを進めており、平成22年に名古屋で開催される生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の場などを通じて、本県の取り組みを世界に向け発信していきたいと考えています。

この白書は、平成20年度における県内の環境の現状と対策及び今後の課題をまとめたものです。本書が、環境に対する県民の皆様のご理解を深めていただく一助となることを願いますとともに、各種の取り組みについて積極的なご意見、ご提言、そして、ご参画を賜れば幸いに存じます。

平成21年9月

石川県知事 谷本 正憲